

料金後納

ゆうメール

# MACNEWS

〒616-8156

京都市右京区太秦西野町20

TEL 075-871-0374. FAX 075-882-3777

Eメール mac.terakoya@gmail.com

URL <http://www.mac-terakoya.com>

## 今月号の内容

※ 「お母さん大嫌い！」（アンケート結果も）

※ 中学生になったら

※ 良い親、ダメな親、普通の親！！

「お母さん大嫌い！」って、子どもから言われました。  
さあ、どうしますか？



「お母さんのことが嫌いなんだ」と受け取り、「お母さんのことが嫌いなら、勝手にしなさい。」  
そして、お互いに「フーン」とけんかしますか？

その前に、子どもの気持ちを心で聴いて下さい。  
嫌いだといった意味を想像してほしいのです。

「何で怒るの？」「さみしいよ」「つらいよ」「お母さん、僕のこと（私のこと）嫌いなの？」  
子供の言葉の裏には、このような感情があるのでは？

「お母さんにどのように変わってほしいですか？」という、あるアンケート結果によれば

- |                      |     |       |
|----------------------|-----|-------|
| ① 話を聴いてほしい（聞くではなく聴く） | 38% |       |
| ② 期待しないでほしい          | 25% |       |
| ② やりたいことをダメと言わないでほしい | 25% |       |
| ③ 一緒に遊んでほしい          | 12% | とのこと。 |

※ 「聴く」・・・子供の気持ちや心によく耳を傾ける（身を入れてきく）

耳に十四の心 → 相手が話すことに「あっ、そうなんだ」と相槌を打ったりして、感情をどんどん聴いてやること

ところで、子供さんが、「どうせ僕はバカだから・・・」と言っているとすれば、これは親子の日常会話に起因しています。

そこで、MACに通塾している小中学生にも聞きました。

### 親に言われた一番嫌な言葉は？

- |                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| ① 勉強しなさい。宿題しなさい。                 | 22% |
| ② さっさとしなさい。早くしなさい。               | 14% |
| ③ バカ、アホ。(こんなもできひんの？ 何回言ったらわかるの?) | 13% |
| ③ 出ていけ。(施設に預けるぞ。嵐山の川に捨てたらか?)     | 13% |
| ④ ちゃんとしなさい                       | 6%  |
| ⑤ かたづけなさい                        | 5%  |
| ⑥ お手伝いしなさい                       | 4%  |
| ⑦ どけ、そこじゃま                       | 3%  |
| ⑦ 静かにしろ                          | 3%  |

「勉強しなさい」と言って、する子はいないのですけどね(^\_^;)」

ちなみに、東京のある私立中学校では、毎年中3生全員に「やる気」に関するアンケートを採っているそうですが、「親から言われて、やる気がなくなった言葉や行動は？」という質問に対する回答のベスト3は毎年

第1位 「早くしなさい」

第2位 「勉強しなさい」

第3位 「〇〇しちゃダメ」

とのこと (>\_<)

ところでMACでは、こんな言葉がイヤと書いている子もいます。

それは、  
・命令されたとき

・やらなければならないことを「ちゃんとやっているの?」「やれ!」といわれたとき

・やろうって思ったのに、言われたとき

それでは、**どのような声かけをすれば良いのでしょうか?**

まず、命令口調から脱却することです。

その際に大切なことは、「今まで命令ばかりして、ごめんなさい」と子どもさんにはつきり伝えることです。

そうでないと、子どもさんは疑心暗鬼になり、何かさせられるのではないかとか、また元に戻るのではと不安になり、素直に聞くことが出来ないからです。

それでは、具体的に列挙していきます。

・「勉強しろ」ではなく「勉強どうするの？」（勉強をやっていない理由があるはず！）

・「早くしなさい」→「どうする？」

食 事・・・「朝食はどうする」

登校するとき・・・「時間だけど、どうする」

就 寝・・・「何時に寝る？」

e t c

・「バカ」「アホ」→ これは「禁句」です。小さい頃からずっと言われていると、自分は本当に「バカ」だと思い込んでしまい、伸びる子に育てるのに一番大切な自己肯定感が育まれないからです。

・「ちゃんとしなさい」→「どうするの？ どうしたの？」

登 校 前・・・「お母さんは明日の準備できたよ。〇〇ちゃんはどう？」

片 づ け・・・「どうする？お手伝いしようか？」

ぼんやりしている時・・・「どうしたの？何か考えているのかな」

子供たちは、心配されるより、信頼された方がスルスク伸びることに留意してください。

また、大人でも、命令されればなかなか素直に聞くことは出来ません。やる気もなくしてしまいます。

子供たちも同じです。命令口調ではなく、「やる気」アップの言葉を投げかければ、言われなくてもするようになるのです。

なぜ、このようなことを言うのでしょうか？

最近の新入社員は、

- ・指示がないと動けない

- ・段取りが悪い

- ・任された以上に何かやろうとしない

のですが、これは「忘れ物ない？ちゃんと準備した？」と小さい頃から言われてきた親の過干渉が深く関係していると言われています。

今、本当に難関といわれる大学を出ている人ほど、このような傾向が大きいのです。

他のコメントには、次のようなものも、

「いつも、人は人や、うちうちのルールがある。と言っているのに、何であんたは出来ひんの？ みーんな出来てるのに」

「いつも弟と喧嘩するとき、何でいつも喧嘩をするのと親から言われるが、僕はしたくてしているわけじゃない」

また、一人でこんなに多くのことを書いている子もいました。

「早くしろ、はよ片付けろ、早く起きろ、早く宿題をしろ、早く家に帰ってこい」

もう一人は

「片づけろ、考えろ、言い方に気をつけろ、早くして、起きろ」

子供が学校から帰ってくると、

「ちゃんと手を洗いなさい！うがいしなさい！」

「宿題終わったの？」「歯は磨いたの？」と日常的に言っていると、言われたときは行動を起こすものの、今度は言われないとやらなくなってしまいます。

この頃の子が整理整頓できないのは、幼稚園の頃からずっと手伝ってもらい、自分一人で整理整頓した経験がないからなのです。

このようなことにならないためには、親が整理整頓するのではなく「お手伝いしようか」と声をかけることが必要なのです。

前述の自己肯定感ですが、これは

- ・愛されているという実感を持つ
- ・やればできるという自信を持つ

ことにより育まれ、親の過保護、過干渉から卒業することです。

**実は、**この自己肯定感を育むのに育脳トライアルをはじめとする育脳教材が大きく寄与しています。

小学校へ入学する6歳からは、以降、一生続く『学びの基礎作り』の時期に入ります。

この時期の子どもにとって一番大切なことは、

「今まで知らなかったことを知る楽しさ」と「できた！ という喜び」を何度も味わうことにより、学習への**積極的な意欲(やる気)**を喚起させてやることです。

**やる気を引き出すパターンは**

『やる気になる → やる → 出来るようになる』ではなく、

『やってみる → 出来る → やる気になる』 が正しい順序です。



教科書に準じた問題ではなく、「分かった！出来た！」をたくさん実感させることの出来る「育脳トライアル」を初めとする「育脳教材」が必要とされる理由がここにあります。

そして、学習の喜びと達成感を何度も体感する子どもは、モチベーションが上がり、  
喜びは楽しいと感じて高度なことへチャレンジする気持ちが生まれてくるのです。

低学年時に学ぶ喜びや多くの達成感を体感することが、その後の学習に大きく影響するのは言うまでもありません。

MACに通っている子が学習に積極的に取り組み元気なのは、ここに起因しているのです。

## 中学生になったら

複数の小6生に聞きました。

「朝、自分で起きている？」

ほとんどの子が親御さんに起こしてもらっています。

そこで、ご提案です！

このMACnewsの4月号が配達された翌朝から、子供たちに「もう中学生になるのだから自分ひとりで起きるように」と約束をしてほしいのです。

ただし、その場合、どうやって起きるか、やり方を具体的に聞いて下さいね。

親御さんが納得できる方法が言えたらOKです。

例えば、目覚まし時計を手の届かないところに置くとか、目覚まし時計を二つ使うとか。

子どものためを思って何かをしてあげていることが、実は子どもを自立から遠ざけているのです。思い切って信じて任すことにより、思わぬ力を発揮し、大きく成長します。

MACの自立・自律学習も子供たちを信頼するところから出発しています。

いちいち指示しなくても絶対自主的にできるようになると。

中国の古典には

自分の子どものことばかり考えた親の身勝手な行動は、子どもを不幸にする。  
なぜなら、自分のことしか考えないわがままな人に育ち、周りに友達がなくなるから。  
親は誰しも子どもの幸せを願っているのに、そうやって幼いうちから不幸の種をまいている  
ことが分かっていない。

と書かれています。

子供に自分の視点だけでなく、相手の視点、更に自分を俯瞰する第三者の視点を持てるような社会性を育てることが肝要であり、勉強が苦手であっても社会性を育まれた人は社会で活躍できるのです。

## 子どもが失敗したとき

ダメな親・・・子供の失敗に気づかない

普通の親・・・すぐに叱る

良い親・・・「失敗＝チャンス」だと思い、ほめる

子供に失敗はつきものです。

テストでうっかりミスによって、出来るはずの問題も×になってしまった。こんなことが多いのではないのでしょうか？ このとき、  
「次に、ちゃんとやればいいじゃない」  
と、子どもの失敗をスルーしてしまっていないですか？

何と、お母さん優しい！ 理解ある親の態度に見えますね。でも、これが親の対応としては最悪のパターンなのです。子どもは、「何が悪くてミスしたのか」が分からず、また同じミスを繰り返してしまいます。

教室でも、間違いをすると、懸命に言い訳をする子がいます。

この子の場合、いつも親から叱られているのでしょう。でも厳しく叱られれば叱られるほど、叱られたくないばかりにウソをつく恐れもあるのです。

子供を素直な子にしたい、いい方向に伸ばしたいなら

「子どもの失敗＝成長へのステップ」と捉え、

「失敗から学ばせる」こと、出来なかったことを叱るのではなく、

どうしてできなかったのか、どうすればできるようになるのか

を子供と一緒に考えてくださいね。